

# 水の郷 日野

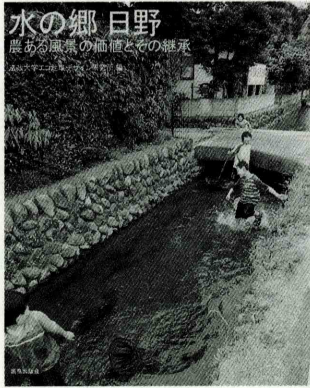
昨年度、日野市と法政大学との間で「水の郷・日野」地域活性化事業」の協定が締結され

ました。この度、ようやくその成果の一つとして写真や図版を中心に日野の特徴や魅力を現わした「水の郷・日野―農ある風景の価値とその継承」が出版されます。さらにその本をテキストに日野塾を開講する予定です。日野塾では「地元学」として地域を知り、学び、そこから新たな地域づくりの担い手が生まれることが期待されています。

微される風景をつくり、守ってきた人々やその営みに焦点をあて、そして最終章ではこれからの日野の方向性について様々な視点から提言しています。

「水の郷・日野―農ある風景の価値とその継承」は40以上のテーマについて取り上げていますが、日野の市民の方々にもそれぞれ専門的立場から執筆いただきました。また日野在住の写真家井上博司さんの人々を生き生きと捉えた写真、雑誌「東京人」で活躍している鈴木知之さんの風を飛ばし撮影した上空からの日野の写真など数多くの写真や図から、日野の新たな魅力を発見できるのではないかと思います。ぜひ多くの方々手にとって見ていただければ幸いです。

(法政大学 エコ地域デザイン研究所)



鹿島出版会より11月発売  
法政大学エコ地域デザイン研究所編

## 潤徳小学校

## 水辺の楽校

## 滝合小学校

浅川で遊ぼうをテーマにいろいろな遊びにチャレンジしています。

ほんの少しだけ、昔の子どもが手助けするのが水辺の楽校ではないでしょうか。ちょっと遊びの方法を始めの一步だけ手ほどきすると子供たちの眼はいきいきと輝き始めます。

たとえば、ターザンごっこはふれあい橋の欄干に大きくて太い縄を縛り付けて下の河原にいる子供たちがぶら下がります。始めのうちは、手助けする大人の私たちが抱きかかえて縄にしがみつくとという雰囲気でしたが、だんだん慣れてまいりますと小学校高学年の子供たちは自分達でつかまれるようになってきます。大人は、よりスピードがつくように子供達の背中を押すように回るようになってしまいます。

もちろん、低学年の子供達はいままでと同じように大人が抱きかかえなくては縄にしがみつけないのですが、どの子供達も気持ちよさそうに、縄につかまって風との一体感を楽しんでいます。ターザンごっこ以外にも、少しの大人の手伝いで要領をすぐ呑み込んで



しまう子供たちの歓声が、ふれあい橋の下に響きました。子供達の声に元気ももらったひとときでした。

(K・A)

浅川っ子の会「川遊び」が、8月29日(日)に行われました。今回の活動場所は、長沼橋の辺り。八王子市から流れ込む湯殿川との合流地点から、橋の下流部にある堰辺りまで、緩やかなカーブを描く場所が今回の活動場所となりました。

参加者は、滝合小学校の教員、児童、保護者、地域の方々、法政大学人間環境学部 西城戸誠ゼミの学生などを含め総勢約40名。大人も子供も若人も、みんなで夏の浅川を満喫しました。

はじめは静かな遊びから。箱めがねを駆使して、ワンドや茂みに入り込んで生き物たちを探しに行きました。ライフジャケットを着用しているの、流れに乗りながら採取活動ができました。

静かな活動にも飽きてきた高学年が次に取った行動は……。ドボンという音と共に川の中へ飛び込んでいました。適当な深めの場所を見つけて、川岸から大きくジャンプしたのです。参加児童の中では最高学年であり、ワンドや河川環境が整い始めた6年前から滝合小学校で川と共に成長してきた児童たちにとっては、川岸からのジャンプは川遊びとしての定番となりつつあります。

思いっきり川遊びをしたあとに児童たちから「次の川遊びはいつ?」という質問をされました。楽しみにしている3年生以下の児童には申し訳ないのですが、次の川遊びは……9月15日(水)の浅川クラブで行います!(6年生女子の9割以上が加入している人気クラブです)。ホームページで活動報告をしますので、ぜひご覧になってください。

(滝合小学校教諭 清水)